

中国共産党の歴史 についての決議

(1949～1981)

毛沢東、「文化大革命」
および人民共和国の成果
についての権威ある評価

中国共産党の歴史 についての決議

(1949～1981)

外 文 出 版 社

北 京

中国共産党の歴史についての決議

1981年 初版発行

出版者 外文出版社
(北京阜成門外百万莊)

発行者 中国国際書店
(北京 P. O. Box 399)

取扱店 東方書店(東京) 亞東書店(東京)
中国書店(福岡)(株)内山書店(東京)
~~中国書店(東京)~~ 朋友書店(京都)
(株)藤原書店(東京) 中華書店(東京)

番号: (日) 3050-2853

3-J-1582P

00070

目次

建国いろいろの党の若干の歴史的問題についての決議……………	1
（一九八一年六月二十七日、中国共産党第十一期中央委員会第六回総会で一致採択）	
中国共産党創立六十周年祝賀集会での演説……………胡耀邦…	87
（一九八一年七月一日）	
中国共産党第十一期中央委員会第六回総会の公報……………	123
（一九八一年六月二十九日採択）	

建国いろいろの党の若干の 歴史的問題についての決議

（一九八一年六月二十七日、中国共産党
第十一期中央委員会第六回総会で一致採択）

建国前二十八年の歴史の回顧

(一) 一九二一年の創立いらい、中国共産党はすでに六十年にわたる輝かしい戦闘の過程を経た。建国いらい三十二年の党の経験を経括するには、建国以前の二十八年間、党が人民を指導しておしすすめた新民主主義革命の闘争の過程をざっとふりかえてみる必要がある。

(二) 中国共産党はマルクス・レーニン主義と中国の労働運動との結合の所産であり、ロシア十月革命とわが国の「五・四」運動の影響のもとに、レーニンの指導するコミンテルンの援助を得て生まれたものである。一九一一年、偉大な革命の先駆者孫中山先生の指導する辛亥革命によって清朝がくつがえされ、二千余年もつづいた封建帝制に終止符が打たれた。だが、中国社会の半殖民地・半封建的性格は変わったわけではない。当時の国民党にしても、その他のブルジョアジー、小ブルジョアジーの政治派閥にしても、国家と民族の活路を見出すことはできなかったし、またそれは不可能であった。中国の活路は帝国主義、封建主義の反動的支配を根底からくつがえし、さらに社会主義へと移行することにあることを人民に指示したのは、中国共産党だけである。創立当時、中国共産党はわずか五十余名の党員しかいなかった。党はすさまじい勢いの労働運動と広はんな人民大衆の反帝・反封建闘争をもちあげ、急速に発展して、中国人民のかけが

えのない指導勢力となった。

(三) 中国共産党は、中国の各民族人民を指導して新民主主義のためにたたかう過程で、国共合作の北伐戦争、土地革命戦争、抗日戦争、全国解放戦争という四つの段階を経てきた。その間、一九二七年と一九三四年との二回にわたり重大な失敗をなめるという苦しい試練を経たものの、長期にわたる武装闘争と各分野のさまざまな形態の闘争とを緊密に結びつけることによって、一九四九年、ついに革命の勝利を勝ちとったのである。

一九二七年、蒋介石と汪精衛に牛耳られた国民党は、傑出した人物宋慶齡に代表される国民党左派の断固たる反対を無視して、孫中山の決定した国共合作と反帝・反封建の政策にそむき、帝国主義と結託して、共産党員と革命的人民を虐殺した。当時、党はまだ比較的未熟で、陳独秀の右翼投降主義の指導のもとにあったため、強大な敵が突然おそいかかってきたとき、革命は手痛い敗北を喫し、六万余の党員を擁していた党は一万余の党員をあますのみとなったのである。

しかし、党は依然としてねばりづよく戦いつづけた。まず、周恩来同志らの指導する南昌蜂起によって、国民党反動派にたいする武力抵抗の火ぶたが切っておとされた。党の「八・七会議」で土地革命と武装蜂起の方針が確定すると、やがて秋收蜂起、広州蜂起、その他の地域での蜂起が決定された。毛沢東同志の指導する湖南・江西省境地区での秋收蜂起では、労働革命軍第一師

団が編成され、井岡山に最初の農村革命根拠地がうち立てられた。朱徳同志の指導する蜂起部隊もまもなく井岡山に到着して合流した。その後、闘争の発展につれて、党は江西省の中央革命根拠地と湘鄂西（湖南・湖北省西部）、海豊・陸豊、鄂豫皖（湖北・河南・安徽省）、瓊崖（海南島）、閩浙贛（福建・浙江・江西省）、湘鄂贛（湖南・湖北・江西省）、湘贛（湖南・江西省）、左江・右江、川陝（四川・陝西省）、陝甘（陝西・甘肅省）、湘鄂川黔（湖南・湖北・四川・貴州省）などの根拠地をあいっいで樹立し、労農赤軍第一、第二、第四方面軍とその他多くの赤軍部隊を創設した。国民党支配下の白色地区でも、苦しい条件のもとで党とその他の革命組織が発展し、大衆的な革命闘争がくりひろげられた。土地革命戦争では、毛沢東、朱徳諸同志のみずから指導する赤軍第一方面軍と中央革命根拠地がもっとも重要な役割を果たした。赤軍の各方面軍は国民党軍の再三にわたる「包囲討伐」をつぎつぎと撃ち破った。だが、王明の左翼冒險主義の指導によって五回目の反「包囲討伐」戦争に敗北したため、第一方面軍はやむなく二万五千華里の長征を執行して陝西省北部に転戦し、そこで闘争を堅持していた陝西省北部の赤軍ならびにそれより先にそこに到着していた赤軍第二十五軍と合流した。第二、第四方面軍も前後して長征をおこない、陝西省北部に転戦した。赤軍の主力が撤去したあとの一部南方根拠地では、困難な条件のもとで遊撃戦争が堅持された。王明の左よりの誤りによる敗北のため、革命根拠地と白色地

区の革命勢力はきわめて大きな損害をこうむった。赤軍は三十万人から約三万人に減り、共産黨員も三十万人から約四万人に減っている。

一九三五年一月、党中央政治局は長征の途上、貴州省の遵義で會議をひらき、赤軍と党中央における毛沢東同志の指導的地位を確立した。これによって、赤軍と党中央はきわめて危険な状態からぬけ出すとともに、そのご張国燾の分裂主義にもうち勝ち、みごとに長征をなしとげて、中国革命の新たな局面を切りひらいたのである。これは、党の歴史上、その存亡にかかわる転換点であった。

日本帝國主義がわが国にたいする侵略に拍車をかけ、わが民族が重大な危機に立たされたこの決定的時点にさいし、毛沢東同志をはじめとする党中央は正しい抗日民族統一戦線政策を決定して、これを実行にうつした。党は「一二・九」学生運動を指導し、内戦停止・抗日救国の強大な大衆闘争をもちあげた。張学良、楊虎城兩將軍が西安事変を起こし、わが党がその平和的解決をうながしたことは、国共の二度目の合作と團結抗日を促進する面で大きな歴史的役割を果たした。抗戦の時期において、国民党支配集團はひきつづき反共・反人民の消極的抗戦の姿勢をすてず、抗日の正面の戦場で敗退に敗退をかさねた。わが党は統一戦線における独立自主の政策を堅持し、広はんな人民大衆にしっかりと依拠して、敵の後方における遊撃戦争を展開し、数多くの抗

日根拠地を樹立した。赤軍を改編した八路軍と新四軍は、急速に發展して、抗戦の中堅勢力となった。東北抗日連合軍はひじょうに困難な状況のもとで戦いを堅持した。敵の占領地域と国民党支配区でも、さまざまな形の抗日闘争が幅広く展開された。こうして、中国人民の抗日戦争は八年間も堅持され、ソ連や他の国々の人民の反ファシスト戦争と呼応して最後の勝利をちとるこ
とができたのである。

抗日戦争の時期、わが党は一九四二年から全党で整風というマルクス主義の思想教育運動をす
すめ、大きな成果をおさめた。この土台のうえに、一九四五年、党の六期七中総で『若干の歴史的
問題についての決議』を採択し、つづいて開かれた党の第七回全国代表大会では、歴史的経験を
総括するとともに、新民主主義の新中国をうちたてるため正しい路線、方針、政策を決定し、こ
うして全党は思想、政治、組織の面でかつてみない統一と団結を実現した。抗日戦争の終結後、
蒋介石政府はアメリカ帝国主義の援助にたよって、平和と民主を実現しようとするわが党と全国
人民の正義の要求を拒否し、公然と全面的な内戦をひき起こした。全国各解放区人民の総力をあ
げた支援と国民党支配区の学生運動、労働運動と各階層人民の闘争の力づよい呼応、さらに各民
主党派、無党派民主人士の積極的な協力のもとに、党は人民解放軍を指導して三年余にわたる解
放戦争をすすめ、遼瀋（遼寧・瀋陽）戦役、平津（北平・天津）戦役、淮海戦役の三大戦役と長

江渡河作戦を経て、蒋介石軍八百万をせん滅し、国民党反動政府をくつがえして、偉大な中華人民共和國をうちたてた。中国人民は立ちあがったのである。

(四) 二十八年にわたる闘争の勝利は、つぎのことをあますところなく示している。

一、中国革命の勝利は、マルクス・レーニン主義の指導のもとでかちとられたものである。わが党はマルクス・レーニン主義の基本的原理を創造的に運用し、それを中国革命の具体的実践と結びつけて、偉大な毛沢東思想をつくりあげ、中国革命の勝利をかちとる正しい道をさがしあてた。これはマルクス・レーニン主義の発展のための大きな貢献である。

二、中国共産党はプロレタリアートの前衛で、誠心誠意人民に奉仕し、いかなる私的な利益をもはからない政党であり、大胆かつ巧みに人民を指導して敵とねばり強くたたかう政党である。中国各民族人民はみずからの体験を通してこの事実をみてとったため、党のまわりに幅広い統一戦線を結成し、わが国の歴史上かつてみない強固な政治的団結を実現することになった。

三、中国革命の勝利は、主として、わが党の指導するまったく新しい型の、人民と骨肉のつながりのある人民軍隊に依拠し、長期にわたる人民戦争で強大な敵を打ち負かすことによってかちとられたものである。このような人民の軍隊がなければ、人民の解放と国家の独立はありえない。

四、中国革命はどの段階でも各国の革命勢力の援助を得た。中国人民はこのことを永遠に忘れることはない。しかし、中国革命の勝利は、つまるところ、中国共産党が独立自主、自力更生の原則を堅持し、中国各民族人民自身の力に依拠して、ありとあらゆる苦難にたえ、かずかずの困難と障害をのりこえてかちとったものである。

五、中国革命の勝利は、わが国では、ごく少数の搾取者が広はんな勤労人民を支配していた歴史に終止符を打ち、帝国主義、植民地主義が中国の各民族人民を奴隷化していた歴史に終止符を打った。勤労人民が新しい国、新しい社会の主人公となったのである。世界人口の四分の一近くを占める大国で人民革命が勝利したことは、世界の政治的な力関係を変えるときともに、中国のように帝国主義、植民地主義の搾取と抑圧をうけている多くの国の人民を上げまし、前途への確信を強めさせた。中国革命の勝利は第二次世界大戦以後のもっとも大きな政治的出来事であり、国際情勢と世界人民の闘争の発展にはかり知れない大きな影響をおよぼした。

(五) 新民主主義革命の勝利は、革命に命をささげた数知れぬ人びとと全党の同志、各民族人民の長期にわたる献身的な奮闘によってかちとられたものである。われわれはこれらのすべてを革命の指導者たちの功績と見なすべきではないが、指導者たちの果たした重要な役割を過小評価すべきでもない。党の数多くのすぐれた指導者のなかでも、毛沢東同志は第一位に位置づ

けられる。一九二七年の革命が失敗する直前、毛沢東同志は農民闘争にたいするプロレタリアートの指導の緊要性と、この問題をめぐる右翼的偏向の危険性をはっきりと指摘していた。革命が失敗すると、かれは党の活動の重点を首尾よく都市から農村へ移し、農村に革命勢力を温存、回復、発展させるうえで主要な役割を果たした。一九二七年から一九四九年までの二十二年間、毛沢東同志は党のその他の指導者とともに、あらゆる困難を克服して、革命をみじめな失敗から偉大な勝利へと導いていく全般的な戦略と個々の政策を着々とつくりあげ、これを実行にうつすのを指導した。もしも毛沢東同志が再三、中国革命を危機のなかから救い出さなかったなら、もしも毛沢東同志をはじめとする党中央が全党、全国各民族人民と人民の軍隊に確固とした正しい政治的方向をさし示さなかったなら、わが党と人民はさらに長期にわたって暗黒のなかを模索しつづけなければならなかったであろう。中国共産党が一般に全国各民族人民の指導的中核と認められているのと同様、毛沢東同志は中国共産党と中国各民族人民の偉大な指導者と認められており、党と人民の集団的な闘いのなかから生まれた毛沢東思想も党の指導思想と認められている。これは、中華人民共和国成立前の二十八年にわたる史的発展の必然的な結果である。

建国後三十二年の歴史にたいする基本的評価

(六) 中華人民共和国が生まれて後の中国共産党の歴史は、総じていえば、わが党がマルクス・レーニン主義と毛沢東思想の指導のもとに、全国各民族人民を指導して社会主義革命と社会主義建設をすすめる、大きな成果をおさめてきた歴史であった。社会主義制度の確立は、わが国の歴史上もっとも深い意義をもつ、もっとも偉大な社会的変革であり、わが国のこれからのすべての進歩と発展の基礎である。

(七) 建国後三十二年間にわれわれのちとった主な成果は、つぎのとおりである。

一、労働者階級の指導する、労働同盟を基礎とした人民民主主義独裁、すなわちプロレタリアート独裁の国家権力を樹立し、うち固めたこと。これは中国の歴史上かつてみない、人民を主人公とする新しい型の権力であり、富強・民主・文明の、現代化した社会主義国を建設するうえでの根本的な保証である。

二、全国的範囲（台湾などの島をのぞく）で国家の統一を実現し、うち固め、旧中国の四分五裂の局面を一変させたこと。われわれは全国各民族人民の大団結を実現し、うち固め、五十余の民族の平等と相互援助の社会主義的民族関係をきずきあげ、発展させた。われわれは全国の労働

者、農民、知識分子、その他各階層の人民との大団結を実現し、これをうち固め、中国共産党の指導する、愛国民主諸党派と人民団体の協力しあう、すべての社会主義的勤労者、社会主義を擁護する愛国者、祖国の統一を擁護する愛国者の参加する、台湾同胞、香港・澳門（マカオ）同胞と海外華僑を含めた幅広い統一戦線を強化し、拡大した。

三、帝国主義と覇権主義の侵略、破壊、武力挑発にうち勝ち、国家の安全と独立を守りぬき、祖国の国境を守る闘争を勝利のうちにすすめた。

四、社会主義経済を確立し、発展させ、生産手段私有制の社会主義的改造を基本的になしとげ、生産手段の共有制と労働に応じた分配を基本的に実現したこと。搾取制度は廃止され、階級としての搾取階級はもはや存在しなくなった。かれらのうちの圧倒的多数は、自分の労働で生活する勤労者となっている。

五、工業建設で大きな成果をおさめ、比較的とのつた独立した工業体系と国民経済体系を逐次つくりあげたこと。一九八〇年を経済面の回復の達成された一九五二年と比べてみると、工業部門の固定資産は五二年当時の価格に換算して二十七倍余の四千百余億元となっている。また、綿糸生産量は四・五倍の二百九十三万トン、石炭生産量は九・四倍の六億二千万トン、発電量は四十一倍の三千余億キロワット時、原油採出量は一億五百余万トン、粗鋼生産量は三千七百余万ト

ン、機械工業生産額は五十四倍の千二百七十余億元に達している。広大な内陸部と少数民族居住地区にも、新たな工業基地が一部建設された。国防工業は無から有へと逐次発展をとげた。資源の探査の面でも大きな成果をあげている。鉄道、自動車道路、船舶、航空などの輸送事業と郵便・通信事業も大きな発展をとげた。

六、農業生産の条件もいちじるしく改善され、生産水準が大幅に向上した。全国の灌漑面積は、一九五二年の三億ムー（一ムーは約六、六六七アールに相当）から現在の六億七千万ムーにまで拡大した。長江、黄河、淮河、海河、珠江、遼河、松花江など大きな河川の洪水も、普通の規模のものなら、一応防止できるようになった。解放前、わが国の農村には、農業機械、化学肥料、電気などがほとんどなかったが、いまでは農業用トラクターと排水・灌漑機械をもつようになり、化学肥料の施肥量も大幅に増加し、電力使用量も解放直後の全国発電総容量の八・五倍に達している。一九八〇年には一九五二年と比べて、全国の穀物收穫高は二倍近くになり、綿花も二倍以上になった。人口の増加が速すぎ、現在すでに十億近くになっているにもかかわらず、われわれはやはり自己の力に依拠して、十億近い人民の衣食を基本的に確保している。

七、都市と農村の商業と対外貿易はいずれも大きく発展している。一九八〇年を一九五二年と比べてみると、全人民所有制商業の商品買付総額は百七十五億元から二千二百六十三億元に増え